

早生樹チャンチンの増殖 ー繁殖特性を利用して新たな増殖法を開発するー

1. はじめに

遺伝資源部が担当する林木のジーンバンク事業では、将来の多様なニーズに対応した林木の新品種の開発やバイオテクノロジー等の先端技術の開発に役立てるため、また森林が保有する貴重な遺伝資源が環境変動等によって滅失することを防ぐために、さまざまな樹種を収集し、保存しています。

今回は、早生広葉樹として今後の活用が期待されているチャンチンについて、その繁殖特性に注目した新たな増殖法を開発する取組を紹介します。なお、チャンチンについては、本誌No.33「センダン、ユリノキ、チャンチン」その先へ」とNo.35「早生広葉樹の育苗技術の開発に向けてーユリノキ、チャンチンの効果的な種子精選方法ー」においてもチャンチンの取組を紹介していますので、こちらもご覧下さい。

2. チャンチンの増殖

チャンチンの大木の周りに草の茎のような細い幼苗(写真1、矢印)がたくさん生えていることがあります。これらは親木の根から発生する根萌芽で、鉢植えにした若い苗木でも確認されます(写真2、矢印)。そこでわれわれは、このチャンチンの繁殖特性に注目し、人為的に根萌芽を発生させてクローン苗を大量に増殖することを目指しています(写真3)。

これまでの調査で、根萌芽を利用した場合、樹木の一般的なクローン増殖法であるさし木よりも良い苗木が得られることが明らかになっています。また、親木から採取した根萌芽を土に寝かせるようにして挿しつけること(寝伏せ挿し)で新たな根萌芽を発生させることに成功し(写真4、矢印)、発生する根萌芽の量は親木によって違うこともわかりました。

3. おわりに

ご紹介した取組は、育成している苗木を観察

して偶然見つけた根萌芽からはじまりました。樹木を育てる業務において、観察することの大切さを改めて感じました。



写真1 大木の周りで見られる根萌芽



写真2 鉢植えにした若い苗木から発生した根萌芽

・土を除くと根から増殖したことがわかる(右)。



写真3 根萌芽(写真2)から得られたクローン苗



写真4 寝伏せ挿しで人為的に発生させた根萌芽

(遺伝資源部 探索収集課 弓野 奨)